（様式第１号）

平成２８年度第１回総合教育会議　会議録

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 平成２８年１１月１１日（金）　１４：００　～　１５：３０ |
| 場　　所 | 市役所東館３階　大会議室 |
| 出　席　者 | 山中市長　福岡教育長<br>教育委員　木村 雅史・浅井 伊都子・松本 朋子・小石 寛文 |
| 司　　会 | 稗田企画部長 |
| 事　務　局 | 岸田管理部長，北野学校教育部長，川原社会教育部長，奥村政策推進課長，森田企画部主幹，山川管理課長，長良管理部主幹，長岡生涯学習課長，荒谷学校教育課長，中塚学校教育部主幹，俵原学校教育部主幹，御宿政策推進課主査，高橋管理係長 |
| 会議の公開 | ■　公　開 |
| 傍 聴 者 数 | １　人 |

１　会議次第

(1)　開会

(2)　議題１　平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果について

(3)　議題２　平成２９年度当初予算要求における教育委員会の主な事業について

(4)　その他

２　提出資料

(1)　次第

(2)　議題１資料　平成２８年度　全国学力・学習状況調査（報告）

(3)　議題１資料　平成２８年度　全国学力・学習状況調査　特徴的な問題

(4)　議題２資料　平成２９年度　当初予算要求における教育委員会の主な事業について

(5)　議題２資料　山手中学校建替図面

(6)　議題２資料　精道中学校建替基本構想

(7)　議題２資料　地方創生に係る淡路市との連携事業の実施について

３　審議経過

**稗田企画部長**　平成28年度第１回総合教育会議を開催します。本日司会を務めます，企画部長の稗田です。よろしくお願いします。

それでは，市長に開会のご挨拶をお願いします。

**山中市長**　皆さま，こんにちは。今，アメリカの姉妹都市であるモンテベロ市から，市民訪問団が芦屋に来られています。

市民訪問団も５年ごとに双方の交流があり，特に学生親善使節は，今年で52回目となり，非常に歴史のある交流が続いています。また，今年度は加えて中学生６名が，17年ぶりにモンテベロ市を訪問させていただきました。交流の報告会などを聞いても，実施して大変良かったと感じます。

また，非常に嬉しいことに，第68回の全日本中学校英語弁論大会で，山手中学校の２年生の生徒が，この派遣時体験についてのスピーチで１位になりました。また，数学・理科甲子園というイベントでは，精道中学校の２年生の生徒が，県で１位とすばらしい成果が出ていることに，教育委員会の皆さまの取組に心から感謝を申し上げます。

また，全国学力・学習状況調査で，それぞれ中学生，小学生ともに今年も全国平均を上回っており，そうしたことで「教育のまち芦屋」が実現されているものと考えています。

しかし，財源不足は顕著にあらわれてきています。財政状況は，かつての頃から見るとかなり改善されていますが，まだ非常に厳しい状況です。また，来年度は山手中学校の建て替えがあるため，非常に多くの費用が発生してきます。これは，教育費が多いということで，見方によっては非常にいいことでもあります。民生費に次いで来年度は教育費が２番手になると思います。

山手中学校の建て替えについては，ぜひ芦屋らしい学校を建てたいと思っています。とはいえ，非常に高額な予算を伴うものですので，内容の精査が必要だと考えています。

本日は，今年度第１回目の会議です。よろしくお願いします。

**稗田企画部長**　議事に入る前に，会議の成立と公開の取り扱いについて確認します。本日は全委員出席のため，会議は成立しています。

また，傍聴者の方が１人いらっしゃるので，入室いただきます。

それでは，議題１に入ります。平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について，事務局から説明いたします。よろしくお願いします。

**荒谷学校教育課長**　まず，「平成28年度学力・学習状況調査（報告）」資料の１ページ目をご覧ください。

今年度の調査は，国語，算数・数学の２教科で実施されました。芦屋市全体の結果については，小中学校ともに今年度も全ての教科で全国平均を上回り，市教育委員会では十分に評価できる結果と考えています。

また，質問紙調査結果では，本市児童・生徒の学習習慣，生活習慣等に関して評価できる点が多いものの，いくつかの課題も読み取れることから，今後も積極的に改善に取り組みます。後ほど，具体的な部分を説明します。

２番の調査の概要ですが，今回の調査対象は例年と同じ，小学校６年生と中学校３年生です。今年度は小学校６年生771名，中学校３年生501名が調査を受けています。実施日は平成28年４月19日火曜日です。

今年度の実施教科は，国語，算数・数学ともにＡとＢで，Ａは主に知識を問う問題，Ｂは主に活用する問題です。

次に，２ページをご覧ください。

調査結果の公表について，国・県の方針では，調査により測定ができるのは学力の特定の一部分であることや，学校における教育活動の一側面にすぎないことなどを踏まえ，結果の公表に当たっては，序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

また，本市の基本方針としては，調査結果を十分に把握・検討し，今後の教育施策や教育実践の改善に反映していくことが重要であるとの基本的な考えのもと，説明責任を果たすためにも市全体としての結果を示していくこととしています。今回の結果については，市の広報等を通じて市民にも公表しています。

それでは，本市の各教科の調査結果の概要です。今年度も全ての結果に関して良好，または極めて良好という結果になっています。特に今年度，中学校３年生については，数学はＡ・Ｂ両問題ともに極めて良好という結果が出ています。

それでは，具体的に，この問題の中で芦屋市また全国的な課題がどのようなところにあるのかを，ＡとＢ，また，国語，算数・数学と，１つずつ問題を取り上げて説明

します。

それでは，「特徴的な問題」の冊子，１ページ目をご覧ください。

小学校６年生の国語Ａの問題です。Ａの８番は，ローマ字を書いたり読んだりする問題です。この中の２番に，「あさって」とローマ字で書きなさいという問題が出ています。左側が「asatte」という解答ですが，この問題について，６年生での正答率が，芦屋市が47.2％，国が41.8％ということで，正答率は５割以下になります。子どもにとっては，ローマ字はまだまだ苦手だと考えられます。

特に，無回答の子どもが12.8％です。これについては，３年生，４年生でローマ字の学習を始めますが，まだ定着していないことや，タブレットが主流になったことでキーボードをさわる機会が少なくなっていることがあげられます。タブレットだと，基本的に画面を動かすだけのため，あまりローマ字を使いません。今後は，キーボードの練習も必要と考えられます。

続いて，４ページをご覧ください。

こちらは中学校３年生の国語Ａの問題です。下の問題Ａの９番，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項というところですが，まず例示として【Ａ】の文があり，書き直しをして【Ｂ】の文になったということで，どのような書き直しをしたのか，どのように改善したのかを，１から５の中から２つ挙げなさいという問題です。

Ａを見ていただくと，明らかに「理想」の「想」という字が，「相」と「心」に分かれて見えます。これらの字が大きくなったために，その下の「学校」という字が詰まってしまったということが見つかれば，２番の「別の文字と見間違えないように字形を整えて書き直した」，５番の「用紙の大きさと文字数の関係に注意して書き直した」が回答として出てくると思います。この問いに関しては，市の正答率が39.7％，国の正答率が36.4％です。両方を選ばないと正答にはならず，難しかったのではないかと考えています。消去法だと見つけられるとは思いますが，子どもたちにとっては苦手意識があるようです。

続いて，算数・数学です。７ページをご覧ください。小学校６年生の算数Ａの基礎的な問題です。

こちらでは，場面の読み取りと立式，百分率という問題の（２）の問題を読みます。

『バスに乗っている人数は60人です。乗っている人数は，定員よりも定員の20％多いそうです。定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を，百分率を使った次の

図に表します。図の中のアとイには，下の４つの数のいずれかが入ります。アとイに入る数をそれぞれ書きましょう。』。バスに乗っているのは60人で，定員よりも20％多いので，アが100でイが120となります。特にイについて，120％という定員を超えた人数は子どもにはイメージしづらいようです。これは例年の傾向ですが，割合に関しては正答率が小学校，中学校とも全国的に非常に低く，苦手意識を持っていると考えられます。イについては，芦屋市の正答率は59.3％，約６割の児童が正答しています。国は50.9％，ちょうど５割程度です。

続いて，11ページをご覧ください。

中学校の数学Ｂ問題です。Ｂ問題では，問題解決の方法と式変形の過程の振り返りとして，左側に，数当てゲームで数を当てる方法を文で説明し，右側に，その文で説明したものを式で表しています。最初に決めた数をａとすると，手順どおりに求めた数は５ａ＋10という文字式で表されます。手順どおりに求めた数５ａ＋10から最初に決めた数ａを当てる方法を説明しなさいという問題です。

解答は，『10を引いて５で割る』となりますが，全て理解して，式も文も理解しないとここまでたどり着きません。この問題については，芦屋市の正答率は27.7％，国の正答率は15.4％，単純比較すると約２倍の子どもが正答していますが，それでも芦屋市の子どもたちも３割程度しか正答できていません。

以上が，特徴的な部分の説明です。

続いて，質問紙調査について特徴的な部分を説明します。先に説明した「報告」の冊子10ページをご覧ください。

子どもたちの質問紙による児童・生徒の生活習慣や学習環境に関する質問紙調査の結果です。

４番をご覧ください。「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」については，全国に比べて，小学校，中学校とも非常に多く，十分満足しているということです。また，７番「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は，特に中学校が，全国の50.2％に比べ，中学校55.7％と，約５ポイント増えています。今後も特にアクティブラーニング，主体的・協働的な学習という部分で，この辺りの数値が気になります。

９番「将来の夢や目標を持っている」については，全国に比べて小学校，中学校とも数値が若干少ないです。ここは子どもたちの意識の中で高め，注目すべき数字だと

考えています。

次に11ページです。

子どもたちが家でどのような生活を過ごしているのかということが記載されています。11番「テレビやビデオ，ＤＶＤを見たり，聞いたりする」では，全国で小学校57.1％，中学校48.7％に比べて，小学校で37.6％，中学校で33.6％と，２時間以上行っている子は全国に比べてかなり少なくなっています。

また，12番「１時間以上テレビゲームや，携帯電話，スマートフォンを使ったゲームを含むものをしているか」も同様に，全国では55.0%，中学校で57.1%に比べ，芦屋の小学校では38.3%，中学校では46.0%と数値が低くなっています。

13番でも，スマートフォンでの通話やメール，インターネットの利用率は，全国に比べて芦屋の子どもたちは低いです。

ただし，14番「３時間以上勉強する（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」では，全国の小学校では10.8%，中学校では9.4%と比較して，34.9％，13.4％と，特に小学校では，11番から13番に該当するかなりの時間を学習に充てていることがここから読み取れます。その下の土曜日，日曜日でも同様の状況です。

16番，学習塾で勉強している子どもたちについて特に目立つのは，小学校45.9％に比べ，芦屋市では68.8％，約７割の小学生が学習塾で勉強しているということがわかります。

12ページをご覧ください。

26番「学校に行くのが楽しいと思うか」という問いですが，小学校で86.7％，これはほぼ全国と変わりませんが，中学校は，全国の81.4％に比べ，　芦屋では86.6％が学校に行くのが楽しいと回答しています。中学校において，今年度，評価結果がよかった部分はこの辺りだと思いますが，その下の28番「学校で好きな授業がある」についても，小学校ではほぼ数値が変わりませんが，中学校では全国に比べて９ポイントほど増えています。学校生活が充実していることが読み取れると思います。

また，31番「学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがある」についても，中学校では全国に比べて10ポイント高くなっています。

32番「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思う」については，小学校では全国より１ポイント少なくなっています。逆に中学校では６ポイント程度増え

ています。小学校では，これが課題だと考えられます。

13ページをご覧ください。

42番「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」について，小学生では，全国が83.1％，芦屋市が82.2％ということで全国的に同じような数字が出ていますが，中学校に関しては全国で74.8％のところ，芦屋市では80.8％と全国を上回っています。この設問では，昨年度は中学生で73％だったのが，80.8％，約８ポイント程度上昇しています。いじめに対する取組等の効果が出てきているのではないかと考えていますが，この辺りの数値は経年で調べる必要があると考えています。

48番をご覧ください。これ以降，学校の成果と課題が出てきています。

48番「前の学年までに受けた授業では，自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」，小学校はほぼ同数で全国と同じですが，中学校では，やはり全国と比べて５ポイント以上，こういう機会が与えられていたと思うと９割の子どもが考えています。

14ページの53番をご覧ください。

ここは，今後中学校として伸ばしていく必要があるところです。「前の学年までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う」ことに関しては，小学校では87.6%でほぼ同数ですが，中学校では全国に比べて低くなっています。授業の中で，今日はどんなことをするのか，どういう力をつけていくのかという説明がまだまだ不足しているのではないかと思います。

その下，54番の「前の学年までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」については，やはり小学校は全国とほぼ同等ですが，中学校に関しましては63％から45％とかなり低くなっているので，この辺りにも課題が見受けられます。

報告は以上です。

**稗田企画部長**　ご意見，ご質疑などございましたら，自由にご発言ください。

**山中市長**　42番で昨年よりも高い数字が出たということですが，その他にも何か昨年と顕著に違う数字が出たところはありますか。

**荒谷学校教育課長**　例えば10ページの「自分には，よいところがあると思う」という項目ですが，小学生については，昨年度42％が今年度39％，中学校については，昨年度36％が今年度32％と若干昨年度より減っています。

**山中市長**　年によって前後することはあると思いますが，連続して下がったり上がったりということは，やはり注目点になると思います。その辺りの傾向について，調べておいてください。

芦屋らしいところが数字でよく表れていると思います。

**福岡教育長**　市長から発言がありましたように，芦屋としては，学力調査の結果という一面も非常に大事にすべきところですが，それぞれの学年の傾向があると思います。そうした流れはどうかということが気になります。

とりわけ，最後まで一生懸命問題を解いたかどうかということや，コミスク活動などの地域活動はどうなのかについて気になります。活動状況の実態がまだ示せてないということですか。

**荒谷学校教育課長**　はい。

**山中市長**　思っていたより地域の活動は低いですね。

**荒谷学校教育課長**　毎年，特に小学生は非常に地域の活動をしていますが，６年生になるとやめてしまう児童も多いと感じます。また，子どもたち自身がコミスクの活動を地域活動と認識していないところもあります。コミスクの活動が地域活動の一つであると理解してもらえれば，もう少し，地域の活動に対する回答数値は大きくなるのではないかとは考えています。

**福岡教育長**　34番，36番と16番はなにか関係しているのでしょうか。これが芦屋の特徴ですね。

**山中市長**　関係あるかもしれません。

**福岡教育長**　塾を否定はしません。学校での教育と上手にウイン・ウインの形になったらいいと思います。

芦屋は子どもたちが塾に行っているから，点数が上がるのだという指摘を受ける場合もありますが，芦屋は芦屋として，子どもたちの成績の分布から市長の支援もあって，チューターなどを配置しています。それによって，分布がどうなっているかとかいうことや，学校の授業での成果を報告してもらえますか。

**荒谷学校教育課長**　全国的な課題は，フタコブラクダといわれる，学力の低位層と上位層に２つの高い山ができるものですが，芦屋に関しては，フタコブラクダではなく，高得点のほうに全国よりも右肩上がりに寄っています。低位層があまり増えていないことに関しては，やはりチューターの配置や，きめ細かい教員の対応などで，低学力の

子どもたちの底上げを図っている成果が出ているのではないかと考えています。

**木村委員**　17番で，小学生の読書については全国を上回っていますが，中学校に上がると下がっています。読書活動を推進してきた芦屋市としては，残念だと思っています。

ただ，これも夜の勉強時間の長さ等の影響があると思うので，一概に数値だけではないと思いますが，読書活動をすることの重要性が，あまり家庭で認識されていないのではと思います。読書が学力向上に非常に役立つということへの理解が不十分であるところもあるかと思いますので，そういった方への周知が必要だと思います。それから，11，12，13番の，テレビやゲーム，スマホに使う時間というのが，芦屋の場合は全国よりは非常に低いですが，この時間をより読書や地域活動に充てることへの啓発ができればと思います。

**浅井委員**　同じページですが，小学６年生と中学３年生なので，やはりゆとりがないということがわかります。地域の活動になかなか参加できていません。

いい点では，小学校は先行して学力が上がってきていましたが，中学校の評価も国語Ａ良好，国語Ｂ良好，算数数学Ａ極めて良好，算数数学Ｂ極めて良好という形で随分上がってきています。

先日，精道中学の授業参観に伺いましたが，グループでよく学習していました。始めは通常のように前を向いて，平家物語についての古典の授業を行っていましたが，途中から先生が，グループで考えてみようかと言うと，すぐに机を動かして，小さいグループに分かれました。後ろの人たちは，そのまま正面を向いて机を横につけます。前の２人は直角に机を動かして，４つのグループの皆が教壇も見えるように工夫されていました。そこで子どもたち同士が話し合って答えを導き出していく。そうすると，勉強が苦手で授業に参加できにくい子どもが少なくなります。特に小さいグループだと発言がしやすいと思います。そういう形の取組を地道に続けていくことで，こういう成果が表れてきたと，喜ばしく思います。

**小石委員**　木村委員がおっしゃった読書のことも気になりました。しかし，17番の項目で，例えば質問内容として毎日１時間読書をしているかと聞かれたら，「毎日」ではないと答える子もいるかもしれません。気になる項目があったら，芦屋市が独自に中身を精緻化して調査してみてください。例えば，毎日ではなく１週間でどのくらいの時間読書をしているかと質問の条件を広げて調査を行うなどして，同じ結果になるかを見てください。特に芦屋では，読書は教育の重点項目なので，よりきめ細かく見る必要

があると思います。他にも，重要な項目でありながら芦屋が低いという場合には，もう少し調べ直すことも必要だと思います。

**北野学校教育部長**　読書関係だと，例えば，読書月間中に学校の図書館の本をどれだけ借りているかはデータですぐ出ます。それ以外に，家庭でどのくらい本を読むかというデータもとったことがあります。

学校の図書館から借りている冊数は，経年でデータがとれており，少しずつですが前年度よりも数値は上がってきています。それも教育振興基本計画の中で指標として上げていて，前回は指標の値をクリアしています。次の５年間で新しい目標に向かっており，冊数としては伸びていると思っています。

先ほどグループ学習について浅井委員が発言されましたが，中学校でグループ学習が非常に活発になっています。中学校のイメージとしては，授業で先生が一方的に話すスタイルが目立ちがちですが，小学校で今タブレットが導入されてグループ学習が活発になっている中，中学校でも，子どもたち同士が話し合いをする場面が非常に増えてきています。今回のアンケートの中で，自分の意見が言える場があるという割合が中学生の中で増えているのは，まさにこの結果だと分析しています。

**福岡教育長**　補足ですが，ラーニングピラミッドという言葉があります。これは，授業等を受けて，子どもたちにどれだけ定着するかということです。一斉に黒板で授業をする講義型であれば，大体２週間後の調査で，約５％の定着率だと言われています。そして，今度は実際に，授業でテキストを読ませて参加させたら10％。次に，映像などを見せると20％。実習等を入れると30％。講義の内容を互いに議論して学ばせると50％。さらに，実際に行ったことを再度反復していくと75％。最後に，学んだ内容をそのグループ内で教え合うと90％という数字があります。

つまり，今までの学びの中心であった，先生の板書のみで行う授業を否定はしませんが，さらに工夫が必要だと思っています。芦屋においては，非常に学習到達度の高い子どもと，そうではない子どもがいますので，到達度の高い子はさらに伸ばさなければならない部分と，到達しづらい子にはきちんとフォローをしていかなければならない部分の両面があると思います。

そういう意味においても，これからの学びは，ラーニングピラミッドで示されている定着率の高い授業法であるアクティブラーニングが重要だと思います。学習到達度が低い子どもは，わからないことがわからないと言え，到達度の高い子どもは，自分

の知っていることを改めて教えることで，知識を確実なものにしてほしいと思います。

そのような学びを可能にするために，先生がうまく学びの場をコーディネートできるような学校づくりがさらに必要になると思います。

今回策定した教育振興基本計画にもその内容を込めています。数値化できるものは，さらに分析して，市民や保護者に説明できるようにしなければならないと思っています。教育委員会としては，その辺りについても教育委員の皆さまや市長から，市民目線での忌憚のない意見をいただければと思っています。

**稗田企画部長**　議題１について，もし発言漏れ等があれば，最後にご発言ください。よろしいでしょうか。

それでは，議題２に入ります。

29年度の予算編成が始まったところですが，この段階での教育にかかわる予算，主な事業について事務局よりご説明します。

**岸田管理部長**　それでは，「平成29年度当初予算要求における教育委員会の主な事業について」の資料をご覧ください。ここにあげた事業は，29年度に主に新規で行うものや，目玉事業としてこの場でご報告すべきだと考えられる事業です。これはあくまでも現段階の教育委員会の予算要求レベルであり，今後，財政部局とも調整予定です。

各項目について簡単に概要を説明します。管理部からは３番の「質の高い教育環境の推進」についてご報告します。一番下の在日外国人学校就学補助金ですが，これは今年度まで「朝鮮人学校就学補助金」という名目で補助をしていました。その名のとおり，朝鮮人学校へ就学している子どもたちに対して一定の補助をしていましたが，これまで，特に議会からも，朝鮮人学校の子どもたちだけに補助するのは公平ではないのではと指摘がありました。文部科学省からも，朝鮮人学校に対する補助金について，適正，公平性などを再検証すべきだという通知があったため，このたび再検証を行いました。結論としては，朝鮮人学校に就学する子どもだけではなく，芦屋在住の外国人の子どもたちのうち，外国人学校へ通う子どもに対して一定の補助を行いたいと考えており，補助金範囲を広げるものです。

来年度には，朝鮮人学校に通う子どもたちが４人，その他の外国人学校に通う子どもたちが７人対象になると見込んでいます。ただ，補助金対象にも一定の所得基準が必要なので，児童扶養手当の所得基準を引用して，その基準以下の世帯を対象としたいと思っています。

上の３点は，学校施設整備関連です。次のページ，山手中学校の建替図面と，さらに次のページの精道中学校の建替基本構想について，担当課長からご説明します。

**長良管理部主幹**　まず，山手中学校の建替図面の資料をご覧ください。

山手中学校については，校舎棟が昭和26年に建設以来，今年で65年が経過します。こちらの図面は，新しく建て替えを行った最終の配置図です。図面の一番下でカラー刷りになっている箇所があります。今のテニスコートの部分ですが，ここにまず普通教室棟，管理諸室，給食室が入った建物を建設します。その次に，北側にある特別教室棟を建設します。ここは現在の一期校舎が建っている部分です。最後に，その北側に体育館棟を建設するという順番となりますが，山手中学校の場合は，斜面地に建設されているため，建設が終わった後も造成工事が行われます。この体育館棟の横がサブグラウンドとなっていますが，ここにある前校舎の解体や，その北側にある，横線が入っている箇所への擁壁などの造成工事が引き続き行われます。

左手の駐車スペースと書かれている部分は，現在，第一体育館が建っています。これも建物が全て建設された後に解体を行い，駐車スペースの確保を造成工事と一緒に進めていきます。

工事のスケジュールですが，平成29年夏頃から着手します。現在テニスコートになっている部分からのスタートなので，大きな建物の解体工事からはスタートしません。まず建物を建設してから，解体，建設を行いますが，学校が山にあることや，住宅街の細い道を工事車両が通行するということで，非常に制約があります。そのため，時間も費用も非常に必要になると想定しています。29年度の夏から着手して，建物自体は恐らく約３年半で竣工すると思います。その後，造成工事も含めた工事全体を４年で完了するという目標を持って進めていますが，現状，32年度中に終われるかどうかというところで実施設計を進めています。

次に，精道中学校においては，昭和30年に建てられた校舎棟が，建替工事に着手する平成31年度に64年が経過します。こちらのほうも老朽化が進んでおり，中学校給食の導入に併せて全面建て替えを行います。山手中学校については，30年度の秋頃から給食を導入し，精道中学校では，32年度の秋頃の導入を考えています。

精道中学校建替のコンセプトは，本年度中に基本構想をまとめ，来年度から基本設計，30年度に実施設計をまとめて，平成31年度から工事に着手予定です。こちらについても，最短でも３年，長ければ約３年半を要すると見込んでいます。

「Compact」「Functional」「Healing」ということをコンセプトとして，今後，精道中学校の設計をまとめていきたいと思っています。

**岸田管理部長**　山手中学校でも同様ですが，着工している間の運動部などの場所の確保が課題です。これについては学校教育部とも調整して，できるだけ子どもたちに影響のない手法を考えていきます。

**北野学校教育部長**　続いて，学校教育部から説明します。予算要求の資料の１番，２番，５番をご覧ください。

１番，就学前教育の推進です。３歳児対象の親子ひろばについては，本年度も実施していますが，来年度には岩園幼稚園を加えた８園で実施したいと考えています。目的は，親子の居場所づくりや保護者の子育て支援です。それぞれの園に１名，専任の指導員を配置して実施します。次年度については，現状の週１回の実施に加え，学期に１回程度，研修を加えようと考えています。

２番目，子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実として，スクールソーシャルワーカー配置事業があります。これは，県の補助事業として，本年度７月から実施している事業です。社会福祉士の資格を持つスクールソーシャルワーカーを市単独で配置することで，問題解決に迅速かつ継続的に当たることが可能なため，学校現場の先生方にとっても大きな支えになっていると評価しています。

これについては，昨年まで県のスクールソーシャルワーカーだった方に，引き続き来ていただいています。そのため，昨年度の芦屋の指導事例や，子どもや学校，地域の状況などを大方把握されているので，学校としても非常に活用しやすい状況です。

スクールソーシャルワーカーは，県では中学校区ごとに配置する事業となっていて，今年度は２中学校区に配置されていますが，来年度は，県で配置拡大の計画が示されているため，３中学校に配置予定です。そのための予算を確保するものです。

５番，ブックワーム芦屋っ子の育成ですが，各学校図書館の本の流通整備と記載しています。今，各学校の図書館にない本や，学校図書館に冊数が不足している本については，公立図書館の団体貸出制度を利用し，需要をまかなっています。しかし，その本の受け取りや返却を教員が行っており，大きな負担となっています。その部分を外部委託できれば，よりこの制度が活用できるのではないかということで，本の流通部分を月２回程度，シルバー人材センターに委託できるような仕組みをつくりたいと考えています。それにより，子どもたちが学校図書館以外で，学校を通じて様々な本

が借りられるようになり，本を活用した授業もより活性化されると思っています。また，そのような流通が可能になることで，今後，学校間や，学校と図書館の間のシステムのネットワークづくりがどれほど有効であるか検討するための調査研究にもなると考えています。

**川原社会教育部長**　最後に，社会教育部の所管事業を説明します。

４番の，学校園・学校・地域の連携による支援，あしやキッズスクエアの拡充です。来年度，岩園・打出浜小学校で事業が開始され，全校で実施となります。ただ，岩園小学校については，工事をしている関係上，安全に事業を実施するために，開始は平成30年１月を目途としています。こちらで全校実施になりますが，非常に好評です。特に，学年を超えて子どもたちが一緒にルールをつくり，助け合いながら遊ぶということで，子どもたちやその親たちにも非常に好評を得ているので，この事業について力を入れていきたいと考えています。

ちなみに，現在の６校での10月末の利用率は48％で，1,500名程度の登録をいただいています。今後も増えていくと思うので，しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

次に，６番，生涯にわたって読書に親しむ環境の整備です。図書館本館の大規模改修工事ですが，平成30年度に予定しています。来年度には，その内容の設計を行うことになっています。最近，非常に目新しい図書館について情報を得ることも多いと思います。例えば，カフェ併設のものや，ガラス張りになっているものなど，非常に注目を浴びる図書館ができていますが，昨日開催された図書館協議会の中で委員の先生が，『改修に当たって，先進事例を見ることは大切だが，その土地の実情に合うのが何か，実際に何が必要なのかについて考えないといけない。トレンドだけを追ってしまい，人通りがないところにカフェをつくって経営が成り立たなくなる事例が出ている。ガラス張りの図書館もきれいではあるが，本の背表紙が日に焼けてしまい大変になっているという事例もある。』とおっしゃっていました。

そのために，どんな図書館が必要なのかというビジョンを持った改修工事をしていかなければならないと思っています。今年度中には，利用者の方からお声を聞く機会を設け，状況調査を行いたいと思っています。

コンピューターのシステム工事については，経年劣化によるものです。

次に，７番の生涯学習の推進です。来年度に富田砕花の旧居が開館30周年を迎える

ので，これを機に，もっと皆さんに知っていただこうということで解説板を新設し，解説パンフレットの作成等を行いたいと思っています。

次に，文化財デジタル図化システム導入です。現在，埋蔵文化財を発掘した場合に手作業で資料をつくっていますが，その一部をコンピューターで取り込むことにより省力化が図れ，またデジタル化によって処理が簡単になり，パンフレット等に取り込みやすくなります。そういったシステムを導入しようと考えています。

月若遺跡出土小銅鐸鋳造体験鋳型作成ですが，子どもたちが実際に，自分で銅鐸をつくる機会を設け，文化財をもっと知っていただく取組を進めていきたいと思っています。

最後に，８番，生涯スポーツの推進ですが，芦屋公園テニスコートの芝が傷んできているため，10面あるコートについて，年度ごとに２面ずつ張り替えたいと思っています。

**荒谷学校教育課長**　現在進めている，地方創生に係る淡路市との連携事業の実施について説明します。

地方創生に係る本市の創生総合戦略を推進するため，地方創生加速化交付金を活用し，「「里山（淡路市)」×「都市（芦屋市)」の魅力による子ども育成モデル事業」として現在，食育と体験プロジェクトを進めています。

淡路産品を活用した食育推進事業による子育て・教育環境充実プロジェクトについては，淡路産品を利用した食を１週間，市内の小学校と潮見中学校で実施中です。

就業体験を通じた体験学習と体験宿泊型観光事業構築プロジェクトについては，９月より，淡路市から紹介された施設に小学校４年生または５年生が行き，さまざまな体験をしています。

裏面をご覧ください。

７月に，芦屋市と淡路市の両部長でセレモニーを設け，「ええもん・うまいもん淡路～御食国（みけつくに）ミッケ～」と題して精道小学校からスタートしました。ちょうど現在，潮見小学校，潮見中学校，山手小学校，打出浜小学校が同様に給食を実施しています。また，上から３つ目の芦屋市学校給食展でも，それぞれ淡路市の産品を紹介するブースを設けました。

それから，10月17日から10月28日まで，「味覚の一週間」と題し，市内の有名シェフを学校に招き，淡路産品等を利用して子どもたちの食育を進めるという行事を行っ

ています。

また， 10月，11月には，小学生が淡路市の事業者へ訪問し，就業体験学習として，稲，ミカン，タマネギ等の収穫や，吹き戻しの工場見学を行いました。先日も浜風小学校５年生が，淡路市から紹介された五斗長（ごとさ）営農というところに行き，古代米の収穫や，エプロンのような古代服を着て，土器でお米を炊く体験をしました。ちょうど６年生に学年が進む上での事前学習になり，大変好評だったと学校から報告を受けています。そういったことを現在，事業として進めています。その他の取組としては，子どもの体力向上，読書推進，プログラミング教育などについて，現在，事業化を検討しています。

**浅井委員**　予算要求についてお聞きします。４番のあしやキッズスクエアの拡充ですが，岩園小学校は平成30年１月開始予定となっていますが，登録料に500円が必要だと思います。これが１月，２月，３月にしか反映されないと思うのですが，特にご意見は出ませんでしたか。新年度から開始にしてはいかがでしょうか。

**川原社会教育部長**　利用者の方は少しでも早期の開設を望んでいるかと思っていました。その部分については内部でも意見が出ていました。少し検討は必要だと思いますが，答えは出ていません。

**松本委員**　あしやキッズスクエアの拡充に関して，学校園・家庭・地域の連携による支援と記載されています。キッズスクエアができる前は，親同士が互いに子どもを預かり合い，家同士のつながりがあったのが，キッズスクエアができたことで，つながりが減っています。

芦屋の子育てについて保護者の方から聞いたときに，公園が多く，子育てサークルなどのママ友どうしの横のつながりができやすいことがメリットのひとつだということでした。今は，孤立しがちなお母さんが直接校長室に行かれる傾向があるので，まずは保護者同士で悩みを聞きあうなど，ＰＴＡで相談できるような横のつながりを支援する方法も考えていく必要があると思います。昔は地域の中で助け合っていたことに，今は行政が多方面で関与しています。サービスが充実していくことにより，地域の中でできることが少なくなる場合もあるので，そういう傾向について支援する必要があると思っています。

もう一つ質問ですが，山手中学校建て替えについてのコンセプトを教えてください。

**長良管理部主幹**　山手中学校は，基本構想の前段階で時間が確保できませんでした。ただ，

設計に際し，考え方の方針を業者へ伝えています。現在，廊下が吹きさらしの部分が多いので，できるだけ屋内廊下を通じ，子どもたちの移動距離を短くしたいと思っていましたが，法的制限もあり，移動距離はそれほど短くなりませんでした。ただ，雨風をしのげる屋内廊下の通行は可能となりました。この部分が実現できた基本方針です。

**小石委員**　先日，浅井委員と能勢町の学校を見る機会がありました。２中学６小学校を一緒にした学校です。そこの校長先生は，設計に際し先生方に意見を募り，できるだけ参考にしたとおっしゃっていました。先生方が普段考えている，使い勝手の良さなどを設計に取り入れると参考になると思います。

**岸田管理部長**　山手中学校でもそれは行いました。ただ，異なるご意見については調整がかなり必要でした。精道中学校でも今後，ご意見をいただく予定です。

精道中学校建て替えについて最大のポイントは，必要な教室を確保しながらも，あらゆる工夫をして建物部分をコンパクトにし，その分，グラウンドを広く確保することです。コンパクトにするには機能的な教室配置が必要であり，かつヒーリングというものが必要です。

**浅井委員**　小石委員のご発言に関連して，２番の，子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実，スクールソーシャルワーカー配置事業について２点事例を紹介します。見学した能勢町立の学校はささゆり学園といいますが，その中によつばルームという，木のぬくもりが感じられ，窓の外には自然が広がる部屋があります。その部屋には相談員の方が常駐されており，そこには中学生でも小学生でも気軽に入っていけるそうです。

もう一つ，奈良県の香芝市の取組を紹介します。市内の４中学校全てにカウンセラールームがあるということです。部屋に一歩入ると杉の木の香りが広がり，箱庭セットも置いてあるなど気持ちが和らぐ作りになっています。これも参考にして欲しいと思います。

**小石委員**　先日，ＰＴＡとの懇談でカウンセリングを行う部屋のことが話題に出ました。どんな配置にすればその部屋を孤立させないかや，保健室との距離なども，併せて考えていただきたいと思います。

**浅井委員**　７番の生涯学習の推進についてです。富田砕花旧居の開館30周年関連事業として，子どもから詩の募集をしてはいかがですか。

**川原社会教育部長**　今のところ，まだそこまでは企画していませんので，今後検討します。

**稗田企画部長**　それでは，最後に教育長から一言お願いします。

**福岡教育長**　学力の面では評価が高いですが，保護者や地域の方の信頼を得るためにも，示せるデータはきちんと公表し，安心していただけるようにしていかなければならないということを改めて痛感しました。

来年から，山手中学校，精道中学校等，経費面でも市長に大英断をいただき進めていくので，必要な分は丁寧に説明していかなければなりませんが，どこかで工夫できる部分があれば，慎重に考えて進めていかなければならないと思います。

教育委員の皆さまから，カウンセラールームや他市の状況等もご説明いただきましたが，他市のすばらしい部分で本市でも取り組める部分，お金をかけなくてもできる部分という視点を改めて考えていく必要があると思います。

また，芦屋市として富田砕花賞を進めている以上は，市民の皆さまに周知し，また文化財を知ってもらうなどして，教育からまちを活性化するという視点は，私たち教育に携わる者にとって非常に大事です。市長がいつもおっしゃるように，教育が元気なまちは廃れることはないという意味で，芦屋市が元気になる１つの起爆剤として，子どもファースト，市民ファーストの視点があることも教育委員会は認識して，必要なことは要望し，ご指摘もいただきたいと思っています。教職員の皆さまも，子どもたちや市民にとって何がいいのかという視点を十分に認識されているので，そういうすばらしさも改めて認識しながら教育行政を進めていこうと思っています。

本日いただいたご意見や，市長からご提言のあった数値化の話等も深慮しながら，教育委員会としても次のステップに進めていきたいと思います。

**稗田企画部長**　本日の議事は以上でございます。事務局から連絡事項はありますか。

**事務局**　次回の開催でございますが、年度末を予定しております。日程につきましては，改めてお知らせいたしますので，よろしくお願いいたします。

**稗田企画部長**　それでは，以上をもちまして本日の会議を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。